

首都大学東京 法科大学院  
平成26年度 2年履修課程

憲法・民法・刑法 試験問題  
(平成25年11月2日実施)

試験時間 午前10時30分～午後1時30分

受験に当たっての注意事項

- (1) 受験中は、机の右上に、① 2013 年度法科大学院全国統一適性試験受験票及び②本学受験票を置いてください。(①と②の両方が必要です。)

机上には、上記受験票、筆記用具、時計及び眼鏡以外の物を置くことはできません。

- (2) 筆記用具は、黒インクのボールペン又は万年筆に限ります。机上に置ける筆記用具はこれだけです。これ以外の筆記用具を用いた場合は0点として採点します。また、消しゴム等で消すことのできるインクや2色(又は複数色)のボールペン等、マーカー、修正液及び定規等の使用も認めません(答案の下書きや問題用紙への書き込みも含む。)
- (3) 携帯電話又はそれに類する通信機器等は身につけず、必ず電源を切って、鞆等の中にしまってください。それらを時計として用いることはできません。
- (4) 耳栓、イヤホン又はそれに類するものの使用は禁止します。
- (5) 受験中の飲食は一切禁止します。ペットボトル等を持っている場合には必ず鞆等にしまい、机の上等に置くことはしないでください。
- (6) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- (7) この問題冊子は表紙を含めて4頁あります。問題冊子を破いたり、ホチキス止めをはずしたりしてはいけません。
- (8) 答案用紙の所定の欄に、受験番号及び氏名を必ず記入してください。  
なお、所定の欄以外の場所に氏名を記載するなど特定人の答案であることが明らかとなるような行為は一切禁止します。
- (9) 答案用紙は、各科目1枚(両面記載)のみ配布しますので、汚損しないよう注意してください。また、解答すべき答案用紙の科目を間違えないように注意してください。
- (10) 「法科大学院試験六法」は各試験時間終了時に回収しますので、書き込んだり、頁を折り曲げるなどして汚損しないでください。汚損行為は不正行為とみなします。
- (11) 試験室では監督員の指示に従ってください。不正行為があった場合又は監督員の指示に従わなかった場合には、失格となります。
- (12) 試験終了時刻までは、試験室から退出することはできません。トイレに行くことも原則として禁じます。緊急の場合や気分が悪くなった場合等には手を挙げてください。  
なお、他の受験者の受験の妨げとなる行為が認められた場合には、監督員が、試験時間中であっても試験場からの退出を命ずることがあります。

## 憲法 問題

Yは、市民運動家であり、次期衆議院議員選挙に、A県第1区から立候補することを計画していた。Yは、新人候補である不利を挽回するには、出来るだけ早く自身の政見や人柄をアピールする必要があると考え、選挙の告示前から、A県第1区の私鉄のB駅前広場で複数回にわたり立会演説を行った。この際、Yは、次の選挙に立候補する予定と自身の政見を説明し、最後に「次の衆議院選挙では、私に一票をお願いします」と述べた。

しかし、公職選挙法129条は、「選挙運動は」「公職の候補者の届出のあつた日から当該選挙の期日の前日まででなければ、することができない」と定め、同法239条は、これに違反した者に罰則を科している。Yは、告示前の立会演説がこの規定に抵触するとして起訴された。

Yを罰することは、合憲と言えるか。あなた自身の見解を、想定される反論への再反論を交えつつ説明せよ。

## 民法 問題

Aは、その所有する建物甲を2000万円でBに売却し、Bは、Aから引渡しを受けた建物甲をCに賃貸し、Cに引き渡した。現在建物甲はCが占有している。

上記の事実を前提にして、次の設問(1)、(2)につき、理由を付して解答せよ。なお、設問(1)と設問(2)とは独立した問いである。

### 設問(1)

Aは、建物甲をBに売却したものの、Bへの所有権移転登記は未了であったところ、Dから建物甲を2500万円で買いたいという申入れを受けた。そこで、Aは、Dに建物甲を2500万円で売却し、Dに対して、建物甲の所有権移転登記を取得させた。建物甲の登記を取得したDは、建物甲を占有しているCに対してその明渡しを請求した。DのCに対するこの明渡請求は認められるか。

### 設問(2)

AとBとの間の建物甲の売買契約では、売買代金2000万円は契約成立後6か月以内に支払われることになっていたが、Bは、建物甲の引渡しをAから受け、かつ、建物甲をCに賃貸して賃料を得ているにもかかわらず、約束の期限までに代金を支払わなかつただけでなく、Aから何度請求されても支払わなかつた。そのため、Aは、建物甲についての売買契約を解除し、建物甲を占有しているCに対してその明渡しを請求した。AのCに対するこの明渡請求は認められるか。

## 刑法 問題

甲は、A女に一方的に思いを寄せていたが、Aが全く相手にしてくれないため、Aを殺害し、自分も自殺するしかないと思い詰めた。甲は、Aをナイフで刺して殺そうと考えたが、Aが抵抗するかもしれないと思い、まずAに自動車を衝突させ、Aを転倒させた上で、ナイフで刺し殺そうと考えた。

甲は、自転車に乗って走っていたAの背後から、時速約20キロメートルで車を衝突させたところ、Aは、約5メートル跳ね飛ばされて路上に転倒した。さらに、Aの乗っていた自転車も3メートルほど離れたところに転がったが、たまたまそばを歩いていたBに、その自転車が当たり、Bもその場に転倒した。

甲は、Aが転倒したのを目の当たりにし、たいへんなことになったと思って、ナイフで刺すことをやめ、Aの元に駆け寄って「ごめんなさい。」と言ったが、そのまま自動車に戻り、運転して逃走した。

Aは加療1週間を要する傷害を負い、Bは加療2週間を要する傷害を負った。

甲の罪責について論ぜよ。